わたしの聖戦（ジハード）

◎◎女性が働くということ◎◎ 78

医学ジャーナリスト・医学博士　植田美津恵

「内定取り消し」を考える

景気の悪化を受けて、学生の内定取り消しの報道をちらほら目にするようになった。ある学生は、積極的にテレビ出演をした上で、内定取り消しによっていかに傷つき、夢を失くしたかを語るとともに、ときに涙を流しつつ当該企業に対して「許せない」気持ちをはっきりと口にしていた。

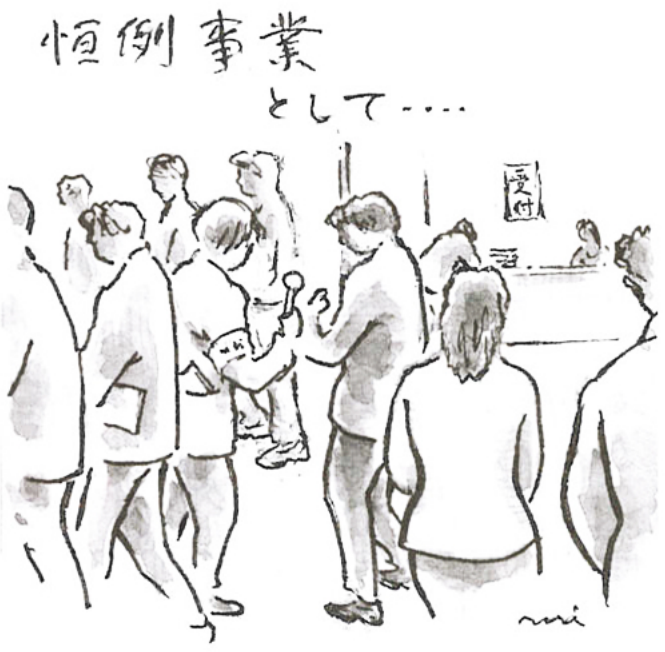
その後も、内定取り消しをした企業に対し厳しい論調の報道が続き、内定を取り消された学生数を公表する一方で、戒めの意味を込め取り消した側の企業名を公にする方向で動いているが、そこには明らかに企業が悪、学生は善の構図がきっちり出来上がっていた。

率直にいって、今の学生はずいぶん甘やかされているんだなと感じてしまった。他の理由ならともかく、業績が悪化し、今いる社員のリストラを手がけている企業に新卒を受け入れる余裕などないだろう。むしろ、その事実を伝えて内定を取り消した企業こそ勇気ある行為に出たと映らないでもないが、少なくとも私が知る限り、テレビなどのコメンテーターたちからはそのような意見も論調も見受けられなかったように思う。

年度が変わって、恒例事業としての入学式や入社式が各地で繰り広げられた。その中で、やはり受注が減少していることを理由に、しばらくの間新卒に自宅待機を命じた企業があった。こちらも意気揚々と新社会に臨んだに違いないのだが、思いがけない対応で、まさに出鼻をくじかれたとはらいなら内定取り消しにしてもらったほうがよほどよかったと思えるのだが、どうだろうか。

人生は色々なことが起こる。内定取り消しは本人にしてみれば大変な出来事だろうが、社会問題にすり替えてしまい大騒ぎするほどのことでもない。せいぜい、やっぱりこの世は不況なんだと認識を深める程度の話でしかないと思う。

大きく報道することで、結果的に学生を甘やかしていることになるのだが、その背景には就職率にこだわり、学生の親の存在を意識する学校の思惑があるのだろう。保護者のための就職説明会が開催されるくらいだから、学生を大切に思って、というより、メンツや対保護者対策としての立場に立たされているのが学校の実情だと思う。



このことだろう。自宅待機の処置を取ったのは一社だけではないのだが、これらはあまり話題にのぼったり、非難を浴びたりはしなかったようだ。私にしてみれば、入社直後に期限もはっきりしないまま待機させられるくらいなら内定取り消しにしてもらったほうがよほどよかったと思えるのだが、どうだろうか。

今の学生は、一昔前と違い、情報量が格段に豊富であり、バイトも含め学外で様々な経験を持つ機会にさらされている。本来、そのような体験こそが、内定取消しをモノとも思わぬ強固な精神力を形成する原動力になるはずだが、とたんに被害者としての自己主張を繰り広げる様子は、白けムードを生むだけだ。まさにこの世は「理不尽」なことだらけ、繰り返し襲ってくる挫折感に打ちのめされ、次第に身をもって社会を知る、大人になるというのはそういうことなのだ。

学生時代のほとんど一年を使って就職活動にいそしむ事態は以前から問題になっているが、それも含め、そろそろ学生の扱い方を見直すいい機会なのではないだろうか。

イラスト・三浦義雄